

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）

（平成27年度）の振り返り

横浜市では「生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）」を策定し（平成23年4月）、市民が身近な生き物とふれあい、生物多様性の理解を深め、行動を起こしていくための取組を進めています。

このたび計画の平成27年度の実績を取りまとめました。

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）は、2025年（平成37年）の将来像を「身近に自然な生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」とし、重点推進施策「5つの重点アピール（※）」、「4つの取組方針」及び、2017年度（平成29年度）までの「具体的取組目標」で構成されています。

（※ 1 b-プロモーション / 2 ヨコハマ生き物探検 / 3 つながりの森 / 4 つながりの海 / 5 生き物にぎわう環境づくり）

将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組

方針1～普及啓発～誰もが都市生活のなかで、自然や生き物に親しみ、実践できる取組をすすめます

「森でのイベント」、「環境教育出前講座」、「動物園等における環境教育」、「恵みの里での体験教室」等を中心に、環境行動の実践に向けた普及啓発、プロモーションを展開しました。

横浜ふるさと村、恵みの里では米作りをはじめとする農体験教室等を実施し、市民と農との交流を行いました。

平成27年8月に実施した「環境に関する市民意識調査」では、生物多様性という言葉を「よく知っている」「ある程度知っている」という人が41.4%でした。一定の浸透が図られているものの、引き続き取組が必要です。

〈主な取組実績〉

※目標数値は2014～2017（平成26～29）年度の4か年の目標値を示しています。

※主な実績の累計値は平成26、27年度の実績の合計を示しています。

取組名	目標	主な実績
人づくりと場づくりの推進		
環境行動の実践に向けた広報・啓発	推進	・知ろう！伝えよう！生きもののつながりキャンペーン2015の開催（5～6月）
森の楽しみづくり	イベント実施及び広報活動 144回	・イベント等の実施 132回（累計239回）
生物多様性でYES！	参加者数 10,500人/年	・環境教育出前講座の実施 プログラム数46、受講者数8,895人
魅力ある公園の新設・再整備	新設・再整備公園数 延べ320か所	・新設・再整備 74か所（累計131か所）
市民が農を楽しむ支援する取組の推進	・農体験教室などの実施 400回 ・農体験講座の開催 20回	・横浜ふるさと村、恵みの里での体験教室の実施 89回（累計183回） ・家族で学ぶ農体験講座の開催 5回（累計10回）
動物園等での環境教育		
動物園等における環境教育	環境教育事業数 330件/年	・動物園での環境教育事業 349件 ・大学、教育機関の施設見学 14件



森の楽しみづくり
（森の楽校）



環境教育出前講座



恵みの里での収穫体験
（金沢区 柴シーサイド恵みの里）

方針2～保全・再生・創造～ 地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます

横浜みどりアップ計画を中心とした「緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り」、「水田の保全」等の各種事業により、多くの樹林地・農地の保全・再生・創造を進めることができました。また、「横浜市及び国内に生息する希少動物の保全の取組」では国内産希少種のミゾゴイの繁殖に日本で初めて成功しました。「都心臨海部の緑花による賑わいづくり」については、都心部の主要な公園で花壇の良好な管理を推進しました。

緑地保全、生物多様性に配慮した公園整備、都心臨海部の緑花による賑わいづくりなど、横浜みどりアップ計画等を踏まえた保全・再生・創造の取組をさらに推進していく必要があります。

〈主な取組実績〉

取組名	目標	主な実績
保全を中心とした取組		
水田の保全	水田の保全承認 123ha（2017年度末）	・水田の保全承認 新規承認2.5ha（累計120.1ha）
緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	緑地保全制度による指定 400ha	・指定の拡大 102.5ha（累計204.2ha） ・買取り 24.1ha（累計42.3ha）
森づくりガイドライン等を活用した森の育成	・維持管理推進 ・保全管理計画策定 樹林地12か所、公園8か所	・森づくりガイドライン等を活用した維持管理 樹林地：121か所、公園：14か所 ・保全管理計画の策定 樹林地：3か所（累計6か所）、公園：3か所（累計8か所）
横浜市及び国内に生息する希少動物の保全の取組	推進	・ニホンライチョウ保全のため、近縁種スバルバルライチョウ飼育繁殖技術確立のための共同研究、生息地での調査実施 ・国内産希少種であるミゾゴイの繁殖成功 2羽（日本初）
身近な動物・傷病鳥獣に関する啓発の推進	講座回数 20回	・来園者を対象とした「エコ森教室」の開催 3回（累計6回）
再生を中心とした取組		
多様な生き物を育む場づくり（アユが遡上する川づくり）	帷子川モデルプランの策定	・「アユが遡上する帷子川アクションプラン」の策定 ・アユの遡上及び流量分布状況調査の実施
創造を中心とした取組		
都心臨海部の緑花による賑わいづくり	推進	・みなとみらい21 地区から山下地区を中心とした4か所で、緑のネットワーク形成を推進 ・山下公園、港の見える丘公園、グランモール公園、新港中央広場において、花壇の良好な管理を推進
保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出	・緑の創出 100か所（2014～2018年度） ・芝生等の維持管理の推進	・校庭・園庭の芝生化、花壇、樹木による植栽など、施設のニーズに合わせた多様な緑の創出 32か所（累計82か所） ・芝生や植栽の維持管理について、費用の一部支援と合わせ、芝生の維持管理についての技術講習会と専門家による訪問指導を実施



水田の保全



新港中央広場の花壇



身近な動物・傷病鳥獣に関する講座

方針3～しくみづくり～ 保全や評価などに取り組むしくみづくりをすすめます

境川流域において陸域生物調査を行い、河川生物相調査の夏季調査を実施しました。また、小学生による「こども『いきいき』生き物調査」を実施しました。横浜市役所の率先行動としては、区局統括本部ごとに環境行動目標を策定し、また、全職員向けに研修を行う等、意識啓発に取り組まれました。

市民が自ら生き物を調べ、主体的な活動へとつながるよう、今後も生き物調査を継続していくとともに、企業や大学・研究機関等との連携を進めていく必要があります。

〈主な取組実績〉		
取組名	目標	主な実績
生物調査データの継続的な蓄積と活用		
市民参加の生き物調査の推進	推進	・小学生対象アンケート調査「こども『いきいき』生き物調査」を実施し、約 170 校、12,000 人超の児童が参加
生物生息状況モニタリング調査	継続実施	・境川流域3か所における陸域生物調査を実施 ・河川生物相調査の夏季調査を実施
市役所による生物多様性の取組の推進		
横浜市ISO環境マネジメントシステムへの反映	推進	・区局統括本部ごとに環境行動目標を策定し、職員が環境に配慮した行動を推進 ・総合環境研修の実施による職員の意識啓発 ・自己チェック及びヒアリング等の内部監査の実施



こども「いきいき」生き物調査 2015 調査票



魚類調査の様子(青葉区 鶴見川)



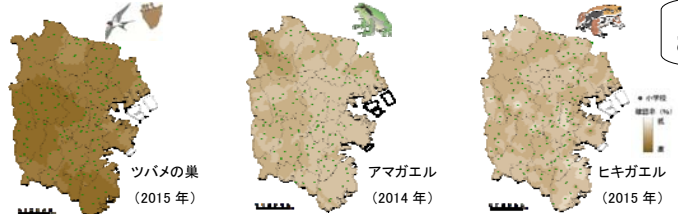
ISO研修

12,000 人を超える小学生が市内全域生き物調査に参加してくれました！

～こども「いきいき」生き物調査 2015 結果～

平成 25 年から市内の市立小学校 342 校（平成 28 年度現在）の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらい市内全域調査を実施しています。参加校数は着実に増え、平成 27 年は 169 校、12,257 人の児童が参加してくれました。

これまでの結果から、市内でツバメの巣を見た児童は 77%程度で3年間ほとんど変化がないこと、同じカエル類でもアマガエルとヒキガエルでは生息環境が違うことから確認しやすい場所が異なることなど、生物多様性の保全に資する貴重な情報を得ることができました。



参加してくれたみんな、ありがとう！



注)色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。

方針4～まちづくりと経済活動～ 生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます

みなとみらい2050プロジェクトでは、「世界を魅了する最もスマートな環境未来都市」の実現を目指し、「ヨコハマ未来モビリティ展」等を通じて国内外に取組をPRしました。

また、海域において、市民団体や企業等と連携した研究・調査やイベントを開催しました。様々なステークホルダーと連携し、小学生にエコ活動呼びかける「こども『エコ活。』大作戦！2015」を実施し、また、農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルの構築を目指し、企業等と連携した地産地消の取組を実施しました。

生き物を身近に感じることができる、都心のまちなみと海・川を活かした豊かな環境のあるまちづくりを進めていく必要があります。また、企業との連携を推進し、生物多様性につながる環境分野の取組の促進につなげていく必要があります。

〈主な取組実績〉		
取組名	目標	主な実績
生物多様性に貢献するまちづくりの推進		
みなとみらい 2050 プロジェクトの推進	推進	・みなとみらい 21 地区を中心に 5 つの公民連携のプロジェクトチームで推進
都心臨海部の海づくり	推進	・山下公園前海域で、浅場の造成などの環境整備を民間企業との共同研究により実施 ・世界トライアスロン大会の EXPO 等に参加し、水質浄化等の事業の PR を実施 ・自動車道護岸沿いの水域において、アマモの植え付け方法の変更を実施、植え付け箇所数の増加
金沢区野島海岸周辺の海づくり	推進	・野島海岸で市民団体と連携したイベントを開催し、海域の生物による水質浄化の PR 等を実施 ・市民活動団体と協働した体験プログラムの実施：参加者数 423 人 ・野島青少年研修センターでの自然体験プログラムの提供：参加者数 6,675 人
金沢区白帆地区の海づくり	推進	・アマモの播種、花枝採取、自然学習イベントの実施
横浜ブルーカーボン事業の推進	推進	・海洋資源を活用した地球温暖化対策の調査・検討 ・カーボン・オフセット、クレジットスキームを検討し、カーボン・オフセットの社会実験を実施 ・事業の広報や、環境啓発イベントを開催
企業による社会参加の拡大と生物多様性に貢献する経済活動の支援		
企業とのコミュニケーション	推進	・横浜市環境保全協議会、横浜商工会議所、国連 WFP 協会と連携し、「こども『エコ活。』大作戦！2015」を実施
市民や企業等との連携（地産地消の推進）	企業等との連携：50 件	・企業等との連携 8 件（累計 13 件）



ヨコハマ未来モビリティ展



わかめ収穫イベント



市内産農畜産物を使用した新商品の開発

平成 27 年度の具体的な取組実績一覧は、環境創造局ホームページに掲載しています。
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/tayou/>

